（法第２８条第１項関係）

# 令和４年度事業報告書

令和４年４月１日から令和５年３月 31 日まで

認定特定非営利活動法人キャリア・デザイナーズ

1　事業実施の成果

2020 年の年明けから本格的に拡大したコロナ・ウィルス感染。今年度もコロナ禍の中での事業実施となった。皆様のご支援やご協力をいただきながらコロナ対策を徹底して行い最終的に無事に年度を終えることができた。具体的なコロナ感染対策として、三密（密集・密閉・密接）の防止、アルコール消毒や換気の徹底、毎日の体温検査等を行った。実施した事業の概要については以下の通りである。

(1) 郡山市受託事業　令和４年度「多様な働き方支援事業」
(2) 郡山市「農福連携推進モデル発展事業」受託実施
(3) 三菱商事復興支援財団の助成による「農作業体験を通じた就労支援事業の立ち上げ事業」
(4) 自主事業（居場所活動、事務所内での軽作業ワーク、ジョブトレーニング、御用聞き、交流会、大型セミナー、保護者会・保護者支援等）
(5) 地域ネットワークの参加を通じての支援協力体制の構築・強化

それぞれについて以下に述べる。

**(1)　郡山市事業「多様な働き方支援事業」**

郡山市多様な働き方支援事業の目的は、郡山市を含む「こおりやま広域圏」の不安定就労者、就労困難者及び就労支援希望者を対象に、社会参加と生活基盤安定のため、カウンセリングや職業的自立に向けた就労支援を行うことにより、個人の適性や意欲に応じた多様で柔軟な働き方ができるよう職業的自立に結び付けることである。

当法人として当事業は５年目の受託となり、今まで蓄積された経験・知見を活用して実施した。

最初に、対象者やその家族の相談を受けた後、当事業への参加が妥当と判断した方（実人数 25 名）について、定期的なカウンセリングを行った。加えて、地元の企業に協力をいただき就労体験（6 事業所で実施）、就労準備の支援のための講座（通称「エンカレッジ講座」、パソコン、ビジネスマナー、コミュニケーションのワーク等）を行った。昨年度に引き続き、相談やカウンセリングで WEB 会議システムに対応した体制を整えた。年間を通じて、当事者だけでなく家族に対するフォローも随時行った。

当事業参加者のアンケート回答は次のようなものであった（22 名回答）。

■「就労する自信がついたか」

・かなりついた：18%
・まあまあついた：59%

・あまりついていない：23％

■カウンセリングについて

他の活動（例えば、就労体験や講座）などと連動して行った。信頼関係を構築し本人の話を傾聴したうえで、課題の洗い出しや目標の設定、振り返りなどを行った。

アンケート回答では、カウンセリングの内容について 90％の方が「満足している」「やや満足している」との回答であった。

・満足している　　（30％）
・やや満足している　　（60％）

アンケートでは、キャリアカウンセリングで「相談した」内容について、上位となったのは次のとおりである。

・自分の適性に合った仕事について　　（60％）
・就職活動の仕方や流れについて　　（30％）
・自信のつけ方について　　（30％）
・収入について　　（30％）
・コミュニケーションの上手な取り方について　（25％）
・メンタルのコントロールの仕方について　　（25％）

カウンセリングの感想（自由記載）では次のようなものが寄せられた。

・自分の今の状況などを知ってもらえることで安心感がある。
・悩んでいることに対して親身になって話を聞いていただいた。
・仕事や将来についてわからないことを聞くことができた。アドバイスをもらえた。

■就労準備のための講座（パソコン、ビジネスマナー、コミュニケーション等）について

原則週 1 回、公益財団法人安積歴史博物館や地域公民館をお借りして、就労準備の講座を行った。パソコン、ビジネスマナー、コミュニケーションを軸に、キャリア教育や金銭教育などの内容も交えて行った。また、令和 4 年 6 月と令和 5 年 3 月に、職業人講話を行った。

就労準備のための講座の実施状況は以下の通りである。

実施日数：　　37 日
参加者数（実人数）：　15 名
延べ参加者数：　　278 名

※同事業の契約締結前の 4 月、5 月は自主事業として行った。

参加者の感想としては以下のものがあった。

就労準備のための講座の感想（自由記載）

《パソコン》

・パソコン作業が効率よくこなせた。
・基礎的な部分から丁寧に教えていただいたのでとてもわかりやすかった。

・便利なショートカットキーが分かった。
・基本的な操作などが再確認できた。

《ビジネスマナー》
・就職活動する際に参考になった。（言葉遣いなど）
・敬語(尊敬語・謙譲語)など、普段は使うことも学ぶ機会もないので良かったと思います。
・秘書検定などの問題など、一般常識が身についた。
・実践的な部分から丁寧に教えていただいたのでとてもわかりやすかった。

《コミュニケーション》
・講座に参加してコミュニケーション能力が向上したことがとても良かった。
・いろんな話題の話しができるようになった。
・色々な人と会話することで自分はこんなことができるんだと発見になった。
・相手に伝わりやすい話し方や聞き方を意識することができた。
・話すことに慣れるようになった。

《職業人講話》
■日付：令和 4 年 6 月 30 日(木)
■講師：岡部純子氏（有限会社ドロップス　代表取締役、福島県中小企業家同友会郡山支部長）
■概要：社会に出る前のお話から社会に出てのお話、そして、過去から現在の状況など、困難な状況にあった時も含め、お話していただいた。参加者からは「勇気づけられました」という感想があった。

【参加者の感想】
・岡部社長の話を聞いて、順風な人生ではなくたくさんの困難があったのだと感じました。それでも会社を設立して代表取締役になって過去の困難を活かして頑張ったことにすばらしいと感じました。
・助けてもらえる人をたくさん作る、感謝の気持ちを持つ、ということが大切だと思いました。
・岡部社長の話をお聞きして、「勇気」をいただきました。いろいろな壁にぶつかって乗り越えて来られた方だと知りました。壁にぶつかるのはチャレンジしたから、今がんばっているからだと前向きにとらえてがんばっていきます。

■日付：令和 5 年 3 月 30 日(木)
■講師：新田勝雄氏
（有限会社肉のニッタ　代表取締役、福島県中小企業家同友会郡山支部 IT 委員会委員長）
■概要：幼少や学生時代の思い出、仕事をしていく上で大切にしていることなどのお話があった。自分自身の選択について過度に考え込まず、まずは前に進むことが大切であると、ご自身の体験を踏まえたお話しがあった。参加者からは、「心に響いた」という感想が寄せられた。

【参加者の感想】
・新田社長の講話を聞いて、選択することについて私も将来のことについて悩んでいたのでとても響きました。今、自分ができることを積極的に取り組もうと思いました。
・色々な選択の中でその選択があるから、今の自分はここにいるし、キャリアの方々にも出会えたんだなと感じました。
・迷うことをやめるというお話が印象に残りました。自分は迷うことが多いので今後はその点を参考にしたいです。

■就労体験
コロナ禍、そして、ウィズコロナ／アフターコロナによる社会変化に伴う雇用環境の変化にも対応した柔軟な発想による支援を行っていくことを意識して実施した。三密になりにくい、就労体験における農作業の実施はその一つの例である。また、リモートワークの可能性も考えられる WEB 業務の就労体験もトライアルとして新たに実施した。

就労体験についての感想（選択式、複数回答）　回答者 15 名
・自分の適性がわかった　15 名（100%）
・体力がついた　13 名（ 87%）
・生活リズムが整った　11 名（ 73%）
といった回答があった。

**(2) 郡山市「農福連携推進モデル発展事業」受託実施**
郡山市で令和元年（2019 年）から 3 か年計画で始まった「農福連携推進モデル構築事業」（受託団体：日本フィランソロピー協会）を継承する形で、令和 4 年度「農福連携推進モデル発展事業」を郡山市より受託実施した。当法人の参加態様として 2 つの側面で参加した。
①農業者と福祉事業者間の連携推進のためのコーディネート業務
②ひきこもり経験者等の就労体験・ジョブトレーニング参加

農業者と福祉事業者間の連携推進のためのコーディネート業務としては、主に下記の内容を実施した。
・通年でなんらかの農作業に福祉事業所等の利用者が農作業に参加できる体制の構築・発展
・定期的に農業者と福祉事業所の担当者が集まり、作業の振返り会の実施
・農業者や福祉関係の有識者による「推進協力者会議」の開催
・イベント等で農福連携による農作物や加工品の販売等を行い、当農福連携事業の認知度向上

郡山市の農福連携事業に関連した事項について、当事業「郡山市農福連携推進モデル発展事業」に参加している農業者や福祉事業所を中心として、有志で郡山市農福連携協議会を任意団体として設立し、当法人が事務局を務めている。農業者や福祉事業者の方らが参加して定期的に意見交換の場を設けている。今後も郡山市及びその近辺の農福連携がさらに推進できるようにしていきたい。

令和 4 年度郡山市農福連携推進モデル発展事業　農作業実施状況

| 農作業 | 参加福祉事業所等 | 延べ参加者数 | 実人数 |
|---|---|---|---|
| ピーマン<br>（5 月～11 月） | 10 事業所<br>（うち、福祉事業所 9、ひきこもり 1） | 828 名<br>内訳：<br>福祉事業所利用者 738 名<br>ひきこもり経験者 90 名 | 90 名<br>内訳：<br>福祉事業所利用者 81 名<br>ひきこもり経験者 9 名 |
| ワイン用ブドウ<br>（6 月、9 月、10 月） | 4 事業所<br>（うち、福祉事業所 3、ひきこもり 1） | 147 名<br>内訳：<br>福祉事業所利用者 122 名<br>ひきこもり経験者 25 名 | 60 名<br>内訳：<br>福祉事業所利用者 53 名<br>ひきこもり経験者 7 名 |
| カブ・ニンジン<br>（11 月～2 月） | 4 事業所<br>（うち、福祉事業所 3、ひきこもり 1） | 280 名<br>内訳：<br>福祉事業所利用者 197 名<br>ひきこもり経験者 83 名 | 32 名<br>内訳：<br>福祉事業所利用者 23 名<br>ひきこもり経験者 9 名 |
| 春菊<br>（11 月～3 月） | 7 事業所<br>（うち、福祉事業所 7、ひきこもり 0） | 445 名<br>内訳：<br>福祉事業所利用者 445 名 | 66 名<br>内訳：<br>福祉事業所利用者 66 名 |
| シイタケ<br>（令和 5 年 2 月 3 日間実施） | 2 事業所<br>（うち、福祉事業所 1、ひきこもり 1）<br>※その他、トライアルで、福祉事業所 1 か所参加 | 18 名<br>内訳：<br>福祉事業所利用者 15 名<br>ひきこもり経験者 3 名 | 11 名<br>内訳：<br>福祉事業所利用者 8 名<br>ひきこもり経験者 9 名 |

※実人数は、各農業者の農作物ごとに作業に従事した実人数の合算。同一人物が複数農業者で参加した場合の重複を排除していないことに注意。

今年度、当事業に延べ人数 1,718 名が参加した。新たに今年度、参加した農業者や福祉事業所もあり、少しずつ農福連携の輪が広がっていることを実感している。

また、職員の 1 名が「農福連携技術支援者育成研修」をオンライン研修と実地研修（農林水産研修所つくば館水戸ほ場）を受講し、農福連携技術支援者として農林水産省より認定された。

そのほか、郡山市「こおりやま農福商工連携企業・団体ガイド」にて、当法人キャリア・デザイナーズ理事長鈴木隆将のインタビュー記事が掲載された。農福連携の当事業を始めとして、地域の様々な団体・個人との連携について話をさせていただいた。

### (3) 三菱商事復興支援財団の助成による「農作業体験を通じた就労支援事業の立ち上げ事業」

令和 4 年 3 月から 9 月まで、公益財団法人三菱商事復興支援財団よりご寄附をいただき、トライアルとして、一般社団法人ふくしま逢瀬ワイナリーと連携して、「果樹農業における農作業体験を通じた就労支援立ち上げ事業」を実施した。福島県の果樹農業 6 次産業化プロジェクトにおけるワイン用ブドウ等の生産農家が受入先となり、剪定から収穫までの作業体験を通じて、農業に関する一貫した知識・経験を習得する機会を提供するとともに、原料ぶどうの収量増加に伴い人手が不足している果樹農家の作業支援を行うことを目的としている。3 月から 9 月まで、10 か所（9 農業者＋

ふくしま逢瀬ワイナリー実証圃場）にて農作業に参加した。10 月、11 月は、公益財団法人三菱商事復興支援財団と作業委託契約を締結し、引き続き収穫作業に参加した。通年を通じて、ワイン用ブドウ農作業に携わることができた。参加した利用者も自信を持つことができた。また、法人としても新たな経験を積むことができた。

### (4) 自主事業（居場所活動、ジョブトレーニング、御用聞き、交流会、大型セミナー、保護者会・保護者支援等）

① 居場所活動

事務所での軽作業ワーク（通称「コ・ワーク」）を今年度も実施。1 回 2 時間を 1 コマとして、火曜日の午前と午後、金曜日午前、原則、週に合計 3 コマを行った。火曜日の午前は、シニア・ボランティアにもご協力いただき実施した。相談して間もない方、体力に不安がある方を主な対象にし、簡単な軽作業をしながら、他者と一緒にいることに慣れること、通所習慣をつけることを意図して実施した。コ・ワークに参加して慣れてくると、他の利用者が他の活動に参加している姿や話を聴くことで、より実践的な就労支援活動（就労体験、ジョブトレーニング、就労準備の講座等）に参加する利用者もいた。

通所習慣や人と一緒にいることに慣れることを目的に、ゲームやレクリエーションをする活動を行った。原則毎週木曜日の午後、就労準備のための講座を午前中に行った後、外部講師を招いて、希望者を対象にゲームやレクリエーションをする活動を実施した。利用者がゲーム進行をしたり、卒業生がアシスタント役として参加して雑学コーナーを担当する姿も見られた。他の人とともに一緒に過ごし、楽しく場を共有することに慣れる機会となった。

② ジョブトレーニング

郡山市事業や民間助成の規定回数を超えてトレーニングを積みたい方向けに、自主事業でジョブトレーニングを実施した。地元企業の協力を得て、ジョブトレーナーが利用者を引率して現場に赴き、原則チームで共に作業を行う形でのトレーニングを行った。自主事業として、年間 529 回、参加者 1,074 名（実数 24 名）であった。中長期的な視点での参加を通じて、就労に必要な体力をつけること、日常生活リズムの改善、他者と協力して活動することに慣れる、働いていく上での自信や自己肯定感の向上につなげることを意図して実施した。ジョブトレーニングと、その他の活動、例えば、講座やカウンセリングがそれぞれ連動した形で行うことができるよう意識した。例えば、ジョブトレーニングで明らかになった課題について、カウンセリングの際に自己の考えを深める材料とするなど、それぞれの活動がお互いに相乗効果が出るようにした。

③ 御用聞き事業

地域の高齢者世帯など地域で困っているご家庭のご依頼に応じて作業をし、ニートやひきこもり経験者の社会参加・自立支援の一環として行っている。これまで実施したお宅からのリピート依頼、連携町内会からの紹介、口コミなどを通じて、高齢者のみ世帯などで困っているお宅の困りごと（草むしり、物の運搬）のお手伝いをした。今年度で 6 年目の実施となり、今までに実施したお宅からの依頼も増えてきた。

「御用聞き事業」を楽しみにしている若者も多い。草が生えていた状態から除草してきれいになっ

た状態を見ると達成感を得られるようだ。高齢者の方からも感謝の言葉をかけられ、自己肯定感や自信の向上になっている。地域の方との温かい交流を通じて、若者の社会参加・自立支援の一歩として地域に根差した活動を展開することができた。

④　交流会

季節ごとに、バーベキュー、郡山市市民活動交流フェスタへの参加、新年会、花見会といった交流会を行った。例年開催しているクリスマス交流会は、地域でのコロナ感染の状況もあり開催を見送った。バーベキュー会では、利用者（メンバー）が司会、ゲーム、調理の各班に分かれて担当した。有志でイベントの１か月前ぐらいからミーティングを重ねて準備をした。コロナ前はボランティアや協力者をお招きして交流を深めていたのだが、昨年度と今年度はコロナ禍ということもあり利用者と職員に参加者を限定し、コロナ対策を徹底しながら行った。

みんなの市民活動交流フェスタでは、なみえ焼そばやじゃがもち等の調理・販売、農福連携事業による農作物の販売等も行った。その他、展示パネルの作成を行った。地域の皆様にご協力していただき、地域とのつながりを感じることができた。

参加者にとっては、交流会当日や事前準備を通じて、単に交流を深めるだけでなく、他者と協力する大切さを実感し、協調性や社会性を養う機会となった。

⑤　大型セミナー「若者の自立を考える親と地域のためのセミナー」開催

令和５年２月に「若者の自立を考える親と地域のためのセミナー」を開催した。今年度も共催団体として、地元企業の福島県中小企業家同友会郡山支部、社会福祉法人郡山コスモス会、コスモス通り心身医療クリニックにご協力をいただいた。京都中小企業家同友会（京都同友会）のソーシャルインクルージョン委員会の２名の企業経営者を講師としてお招きし、お話をしていただいた。いわゆる就労弱者の自立支援について、企業をはじめとして地域で何ができるか、理解を深める機会ともなった。当日の参加者は 74 名だった。支援者、当事者やそのご家族に加え、一般の方、行政関係者、議員（国会議員、県議、市議）など、幅広く参加があった。第二部では、会場からの質問に答える形でパネルディスカッションを行った。講師の京都同友会２人に加え、福島同友会郡山支部の障がい者委員会、当法人会長及び理事長がパネリストとなり、活発に議論を深めることができた。若者や壮年の自立に向けて地域で協力・連携していこうという機運の醸成をすることができた。

⑥　保護者会・保護者支援

当事者の自立に向けては、保護者や家族の理解や支援が必要になってくる。保護者会や面談等を行った。

保護者会を合計１回（令和４年 12 月 15 日）に安積歴史博物館にて実施した。当法人の活動状況を説明し、その後、保護者・家族の皆さんとスタッフが率直に今後のサポートについて和やかにお話をすることができた。

保護者会に参加した方からは以下の感想が寄せられた。

・日頃の気になっていることについて話しをすることが出来た。
・（お子さんの変化として）笑顔が増え、以前より少し積極性が出たように感じます。

・（ご自身の状況変化として）話しをする事が増えた。長い目で娘を見守る事ができようになった。娘から相談される事が増えた。

保護者会を開催するほか、随時、保護者や家族の方との面談や電話でのフォローの機会を設け、実施した。

**(5) 地域ネットワークの参加を通じての支援協力体制の構築・強化**

① 地元企業団体との連携

福島県郡山市中小企業家同友会（福島同友会）に引き続き加盟した。同会郡山支部理事を当法人理事長が仰せつかり、担当した。

また、上記でも述べたように、令和5年2月には、同会郡山支部との共催で、「若者の自立を考える親と地域のためのセミナー」を開催した。

地元企業の皆様には、就労体験の受入れ、雇用の受け皿など大変お世話になっている。今後も継続して連携を深めていけるようにしていきたい。

② 内閣府「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」への参加

昨年に続き、内閣府「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に加盟・参加した。同プラットフォームは、国連が提唱する世界の共通目標である「SDGs（持続可能な開発目標）」の国内実施を促進し、より一層の地方創生につなげることを目的に広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める官民連携の場として内閣府が設置したものである。当法人でもSDGsの理念である「誰一人取り残さない」という考えに沿って、SDGsの17ゴールのなかでも、特に、「ゴール8（働きがいも経済成長も）」、「ゴール4（質の高い教育をみんなに）」、「ゴール1（貧困をなくそう）」を意識して事業実施を行っている。今後も、多様な幅広い個人・団体と連携して事業を展開していきたい。

③ 地元の支援関係機関との連携

昨年に続き、地域の支援関係機関との連携も継続して深めることができた。例を挙げると以下の通りである。

・福島県青少年支援協議会地域連絡会議への参加。
・福島労働局主催の就職氷河期世代活躍支援「県中地域プラットフォーム」への参加。
・郡山市農福連携推進モデル発展事業と連携し、郡山市自立支援協議会就労支援部会への参加。

その他、地域の公的・民間の支援機関とも随時、情報共有・意見交換を行った。

**【総括】**

●コロナ禍における事業実施

冒頭でも述べたように、2020年から本格的に拡大した「新型コロナ・ウイルス」は今年度も収束せず、コロナ禍の中での事業実施となった。コロナ禍の中、当法人にとっては2つの側面がある事を念頭に置きながら事業を実施した。一つにコロナ感染予防対策の実施である。三密防止やアルコール消毒の徹底など、コロナ感染予防には細心の注意を払って実施した。また、同時に、WEB会議システムやインターネットを活用した非接触型の支援についても経験を積んで対応できるよ

うになった。コロナ禍での事業実施に関する二つ目の側面として、コロナ禍により、大きく社会変化が起こった。それに伴う雇用環境の変化にも対応した柔軟な発想がより重要になってきている。コロナが終息した後も、変化した社会状況の中で、ウィズコロナ／アフターコロナに対応した働き方への支援が重要になってくると思われる。会社に就職するだけでなく、起業、リモートワーク、短時間勤務、マルチプルワーカー（複業）など、その人の適性・特性と意欲に合った、同時にコロナ禍にも適応・対応できる、それぞれの就労や働き方への支援を行っていけるよう、組織体制の整備、職員のスキルアップを図っていきたい。

●多様で実践的な支援の展開と地域やボランティアの方々との連携

今年度、1 年間の事業実施の基本的な方針として３つのポイントを念頭に実施した。一つ目は、当法人が安心して通える場所であることを参加者に感じてもらうことである。二つ目に、相談やカウンセリングに留まらず、チームやグループでの活動を重視して事業を展開した。他の人と一緒に活動することで、実際に社会に出た時に社会人の一員としてどのように行動すれば良いのか、実地で学ぶことができるように意図しながら活動を行った。最後に三つ目として、様々な活動を提供し、社会とのつながりを感じてもらうと同時に、参加者が自分の得意な事など自分の長所を理解して将来の進路決定に活かしていけるようにと考えて事業を行った。

設立より 15 期を経て、地域の様々な方や団体・事業所とのつながりが構築・強化できてきている。多くの地元企業の皆様には、就労体験の受入れ等多くの支援をしていただいた。ボランティアの皆様にも多大なご協力をいただいた。例えば、通い始めの方らと一緒に軽作業や就労体験をしていただいた。加えて、農福連携事業と連携して農作業サポートをしていただいたケースもある。今後もボランティアの会をより整備・強化して、さらに幅広い市民の方とも連携できればと考える。事業を展開する上でボランティア、寄附者、支援者などの様々な方のご協力やご支援なくしては充実した事業は展開できない。改めて御礼申し上げたい。

今年度の報告のまとめとして、コロナ禍の中で今年度も 1 年間無事に事業実施できたことに協力者や関係機関の皆様に重ねて御礼を申し上げたい。ウィズコロナ／アフターコロナの社会状況、物価高騰、生成 AI を始めとする急速な技術革新など、不確実性が高く将来の予測が困難な状況が今後も継続することが予想されるが、本年度の事業と今までの経験を踏まえ、次年度以降も組織の基盤強化を図りながら、当事者に寄り添った伴走者としてより良い支援活動を継続的に実施していきたい。

2　事業の実施に関する事項

I. 特定非営利活動に係る事業

（1）就労に係る相談業務及び就労支援活動

| 事　業　名<br>（定款に記載した事業） | 具体的な事業内容 | (A)当該事業の実施日時<br>(B)当該事業の実施場所<br>(C)従事者の人数 | (D)受益対象者の範囲<br>(E)人数 | 事業費の金額<br>（単位：千円） |
|---|---|---|---|---|
| （1）就労に係る相談業務及び就労支援活動<br>①　相談業務 | 郡山市多様働き方支援事業のうち、対象者の把握及び就労相談に関すること、及びキャリアカウンセリング<br>郡山市及びこおりやま広域圏内の就労困難者や不安定就労者等の社会参加や就労に関する総合相談及びカウンセリング | (A通年（随時)<br>(B)事務所<br>(C)職員3名（キャリアコンサルタント） | (D) 郡山市及びこおりやま広域圏内の対象者及びその家族<br>(E)年間 200 回（インテーク相談47回、カウンセリング 153回)、実人数 38名 | |
| | 相談（自主事業）郡山市及びこおりやま広域圏以外の対象者（ニート、フリーターなど) | (A)通年（随時)<br>(B)事務所<br>(C)職員3名（キャリアコンサルタント） | (D)郡山市内在住の対象者及びその家族<br>(E)対象の若者、就労困難者　随時実施 | |
| ②　講座 | 「就職活動の実施に向けた準備段階の支援」(コミュニケーション、パソコン、ビジネスマナー等の講座（エンカレッジ講座）)<br>自主事業（4～5月）及び郡山市事業(6月～翌年3月) | (A)通年　原則毎週木曜日開催　年間43日実施<br>(B)公益財団法人安積歴史博物館、公民館、当法人事務所<br>(C)スタッフ 3 名（うちキャリアコンサルタント 3名)、外部講師2名 | (D)　対象の若者、就労困難者<br>(E)毎回人数 6名～11名　実人数 22 名（延べ385名）参加 | |
| | 当法人利用者向けのパソコン特別講座<br>（word,Excel,WEBサイト作成、cssなど） | (A)通年<br>（毎月第2、4、5土曜日）<br>(B)当法人事務所<br>(C)外部講師1名 | (D)対象の若者<br>(E)毎回 2～3名程度参加 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ③ ジョブトレーニング | 「郡山市多様な働き方支援事業」内の就労困難者や不安定就労者等の就労体験 | (A)通年<br>1 日につき 3～4 時間程度　92 回実施<br>(B)就労体験受入事業所 6 社<br>(C)職員 6 名 | (D)対象の就労困難者<br>(E)　実人数 17 名（延べ 196 名）参加 | |
| | 就労体験（ジョブトレーニング）（自主事業） | (A)通年<br>（週 4 日程度）<br>1 日につき 3～4 時間程度　年間実施回数　529 回実施<br>(B)就労体験受入事業所 16 事業所（スポット作業含む）<br>(C)職員 8 名 | (D)対象の若者<br>(E)　毎回 1～4 名程度参加<br>実数 24 名（延べ 1,074 名）参加 | |
| | コ・ワーク事業<br>無業者の社会参加、通所習慣を身に着けることを目的に、事務所での内職などの軽作業をボランティアの方と行う活動を実施。 | (A)通年、原則週 2 回、年間 101 回実施<br>(B)事務所<br>(C)職員 3 名 | (D)対象の若者実人数 25 名（延べ 724 名）、地域の人々、ボランティア 5 名（延べ 176 名）<br>(E)毎回 6～12 名程度参加 | |
| | 御用聞き事業<br>高齢者のみ世帯など地域の困りごと世帯などの除草・お宅の不要物の運搬などの活動<br>（ニートひきこもりなどの無業者の社会参加、地域の方との交流、自己肯定感向上を目的） | (A)通年、年間 19 回実施。受益者負担や寄付による自主事業として実施<br>(B)郡山市内<br>(C)職員 6 名 | (D)対象の若者、地域住民<br>(E)当法人の利用者　実人数 12 名（延べ 52 名） | |
| | ふくしま逢瀬ワイナリーと連携したワイン用ブドウ農作業への参加 | (A)通年、年間 85 回実施<br>4 月～9 月<br>三菱商事復興支援財団様からの寄附金で実施<br>10 月～3 月<br>自主事業として実施<br>(B)郡山市内及びその周辺<br>(C)職員 5 名 | (D)対象の若者実人数 6 名（延べ 246 名）、地域の人々、ボランティア 13 名（延べ 95 名）<br><br>うち 10 月以降対象の若者実人数 4 名（延べ 72 名）、地域の人々、ボランティア 9 名（延べ 19 名） | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | (E)毎回 3～4 名程度参加 | |
| ④ 受入事業所開拓 | 就労体験受入先事業所開拓 | (A)随時　定期的<br>(B)受入企業先<br>(C)職員 2 名 | (D)(E)対象の若者　不特定多数 | |
| ⑤ 交流会 | 全体交流会（当法人利用者、職員、ボランティアの方が集まり、交流を深める機会として、花見、バーベキュー、市民活動交流フェスタなどを開催） | (A)通年<br>実施回数 4 回<br>(B)地域の公民館、安積歴史博物館､公園など<br>(C)職員 8 名 | (D)対象の若者、ボランティア、地域の方々　実人数 5 名（延べ 8 名）参加<br><br>(E)当法人利用者　実人数 19 名（延べ 48 名）参加 | |
| | エンカレッジ講座（午後）ゲームやレクリエーションなどを通じた集団活動や人馴れの活動 | (A)通年　週 1 回 2 時間開催<br>実施回数 41 回<br>(B)安積歴史博物館、公民館、当法人事務所など<br>(C)職員 2 名、外部講師 1 名 | (D)対象の若者、<br>(E)実人数 17 名（延べ 245 名） | 21,614 |

(2) 支援者育成及び地域社会との連携事業

| 事　業　名（定款に記載した事業） | 具体的な事業内容 | (A)当該事業の実施日時<br>(B)当該事業の実施場所<br>(C)従事者の人数 | (D)受益対象者の範囲<br>(E)人数 | 事業費の金額（単位：千円） |
|---|---|---|---|---|
| (2)支援者育成及び地域社会との連携<br>① 支援者の育成･啓蒙活動 | ホームページ・SNS（Facebook）　更新 | (A)随時<br>(B)当法人事務所<br>(C)職員 4 名 | (D)(E)不特定多数 | |
| | 外部向けニュースレター（いっぽ通信） | (A)2 回発行<br>(B)当法人事務所<br>(C)職員 2 名 | (D)各連携機関約 430 部発送<br>(E)一般、支援者、就労体験関連企業等 | 256 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ② 家族会 | 保護者会 | (A)1 回（令和 4 年 12 月 15 日）<br>(B)安積歴史博物館<br>(C)職員 5 名<br>外部講師 1 名、ボランティア 1 名 | (D)対象の若者の保護者・家族<br>(E) 保護者 5 名 | 3 |
| ③ セミナー・研修会の実施及び参加 | 若者の自立を考える親と地域のためのセミナーの開催 | (A)令和 5 年 2 月 4 日<br>(B)郡山市労働福祉会館（大ホール）<br>(C)職員 7 名 | (D)地域住民、対象となる若者、保護者、支援者、企業関係者、行政関係者等<br>(E)セミナー参加者 74 名 | 153 |
| ④ 地域社会とのボランティア活動等 | 地域のお祭りやイベント等へのお手伝い参加 | (A)随時<br>(B)郡山市内<br>(C)職員 2～4 名 | (D)市民<br>(E)不特定多数 | 0 |

(3) 上記に記載する以外のキャリア形成に係る事業全般

| 事　業　名<br>（定款に記載した事業） | 具体的な事業内容 | (A)当該事業の実施日時<br>(B)当該事業の実施場所<br>(C)従事者の人数 | (D)受益対象者の範囲<br>(E)人数 | 事業費の金額<br>（単位：千円） |
|---|---|---|---|---|
| (3)上記に記載する以外のキャリア形成に係る事業全般<br>① 心のケアーに係るカウンセリング | ・ニート、フリーター状態の若者又はその家族の相談窓口の設置（メール、電話、面談等）就職相談、カウンセリング、心のケアー等を行う）<br>手段：電話、メール、面談、家庭訪問 | (A)通年（随時）<br>(B)当法人の事務所<br>(C)職員 3 名 | (D)対象の若者及びその家族<br>(E)郡山市及びその近辺の住民、若年無業者・保護者、当法人利用の若者約 30 名・保護者 | |
| ② 就職に係る相談業務 | 履歴書作成指導、面接練習等 | (A)通年（随時）<br>(B)当法人の事務所<br>(C)職員 3 名 | (D)対象の若者<br>(E)当法人利用の若者 | 0 |

（4）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

| 事　業　名<br>（定款に記載した事業） | 具体的な事業内容 | (A)当該事業の実施日時<br>(B)当該事業の実施場所<br>(C)従事者の人数 | (D)受益対象者の範囲<br>(E)人数 | 事業費の金額<br>（単位：千円） |
|---|---|---|---|---|
| (4)その他この法人の目的を達成するために必要な事業 | 郡山市農福連携推進モデル構築事業への参加（コーディネート業務等） | (A)随時<br>(B)郡山市及びその周辺<br>(C)職員3名 | (D)対象の若者、農業者、福祉事業所<br>(E)郡山市及びその周辺の農業者、福祉事業所、就労弱者（障害者やひきこもり経験者など） | 3,720 |
| | 開成山公園 Park-PFI 事業に関してNPOや企業との連携 | (A)随時<br>(B)郡山市内<br>(C)職員2名 | (D)郡山市民<br>(E)不特定多数 | 0 |

以上